

WFP試験プロジェクトで植林

温暖化ガス削減と食糧支援

産廃中間処理業の加山興業（名古屋市中熱田区、加山昌弘社長、〒46533・89・037

5／豊川営業所）はこのほど、カーボンフリーコンサルティンク社（神奈川県横浜市）と植林契約を締結し、人道支援と絡めたWFP FOOD FOR CARBON FREE PILOT PROJECTを支援することを決定した。

インドネシアは8700万人が貧困による食糧不足の状態にあり、その多くがティモール島を含む東部インドネシア地域に集中している。WFP国連世界食糧計画が進めている温暖化ガス削減のための食糧支援（Food-

For Carbon Free）PILOT PROJECTは、共同体による、乾燥

し痩せた土地の開墾・植林事業を支援すること、で、現地の緑化を行い、土壌の改良を推進する。これにより生活に必要な食料の生産および余剰の販売を可能とし、貧困からの脱却を図り経済的な自立につなげていくことを目指している。

同プロジェクトの実施によって、一世帯当たりの農地（0・16ha）にカシューナッツの木が、また農地の周りにジャトロファの木がそれぞれ植樹され、20年以上の期間にわたり保全していく。

また、ジャトロファ

の種を活用するために各世帯にジャトロファ種専用調理用コンロを配布。まきの使用量を減らし、炭素吸収源となる森林資源の保全に役立てる。

WFP国連世界食糧計画は世界最大の人道支援機関で、国連唯一の食糧支援機関。すべての活動資金は寄附で賄っている。10年は3カ国で9000万人以上を支援する予定。インドネシアでも自然災害の被災者等に対し支援を行い、約85万人を目標に活動を続けている。

加山興業では引き続き環境対策を進め、同プロジェクトで貢献できる世帯数を増やしていくことで、温暖化ガス削減とともに一層の食糧支援を展開するための支援を進めていく方針だ。